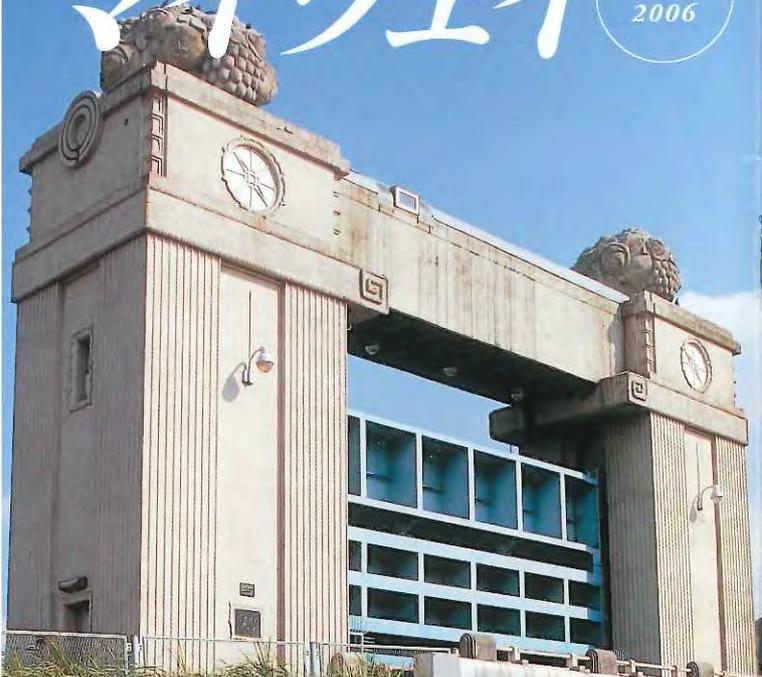


マイウェイ

No.62
2006



かながわ 産業遺産物語

— 京浜臨海部編 —

協力 長島保

写真 桜井ただひと 桜井ロクスケ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成18年12月発行 ● 発行人 小川 是 ● 編集人 清水照雄 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2117 (直通) ㈱西北社 大日本印刷㈱



かながわ産業遺産物語【京浜臨海部編】

広大な干潟は姿を変え、臨海工業地帯として日本の産業発展の中核地となりました。

表紙／川崎区港町にある川崎河港水門

(国登録有形文化財)

裏表紙／東洋科学館、昭和期の家電製品の展示

浅野総一郎の埋め立て

長島保 川崎産業ミュージアム専門委員

欧米の近代的な工業地を目にする

横浜市神奈川区子安台にある浅野学園の一隅に、実業家・浅野総一郎の大きな銅像があります。その銅像は、自らが埋め立てて造成した臨海工業地帯を見下ろすようにして立っています。この眼下の浅野埋立地こそ、後の京浜臨海工業地帯形成の先駆けとなったのです。浅野総一郎は、嘉永元年（一八四八）に旧越中

国射水郡敷田村（富山県氷見市）で、村医者の長男に生まれます。二十三歳で上京し、街頭での砂糖水売りを振り出しに、味噌などを包む竹皮の仕入れ販売、石炭・コークスの販売などを転々としていきます。やがて明治十六年（一八八三）、

第一国立銀行頭取の



横浜市神奈川区子安台の浅野学園内に建つ浅野総一郎像。浅野学園は技術者を養成するための教育機関として設立したもので、総一郎は公立中学より好まない授業料の私立中学を目指したという。



現在の京浜臨海部。緑線は明治前期の海岸線。地図は2万5千分1地形図（国土地理院発行・平成7年～12年の修正版）から4枚を縮小・複製しました。

洗沢栄一しざわ へいいちの口ききで、東京深川ふかがわの官営セメント工場を払い下げてもらい、企業家としてのスタートをきりました。



子安台の浅野学園からは遠くに京浜臨海部の工業地帯が見える。

その後の総一郎は、炭鉱・瓦斯・石油・海運・造船などの諸事業を次々と手掛け、同二十九年（一八九六）四十八歳のときには、東洋汽船の初代社長となりました。

ほどなく社用で欧米を訪問、旅先で発達した工業地帯を見て、大型貨物船接岸の港湾施設や運河に面した工場用地造成などの必要性を痛感します。

かつてない規模の埋め立て事業

おりから粉じん公害で移転を迫られていた深川セメント工場の問題もあって、海浜埋立地造成を決断、首都東京に近いというので京浜臨海部が選ばれました。遠浅の海浜を総一郎は、脚絆きんぱんわらじ履きで実地検分に及びます。埋め立て計画の規模は約百五十万坪。あまりの広さに県は許可せず、安田善次郎やすだ ぜんじろうや洗沢栄一らの支援を得てクリアします。それを七区画に分け、大正二年（一九一三）から埋築工事に着手しました。工事では、イギリ

スから購入した新鋭サンドポンプ船七隻が威力を発揮。海底の土砂を海水ごと吸

い上げて、広大な埋立地を造成したので、完成は昭和五年（一九三〇）。造成された土地は、進出企業に次々に売却されて、「巨富を得た総一郎は「金は海からすくうもの」と豪語しました。事業完成の二年後に、総一郎は八十五年の生涯を閉じますが、先の銅像の両側には、関係した数十の企業名がずらりと刻まれています。

この浅野埋立地の事業に続いて、神奈川県や川崎市などの埋立造成事業があいつぎ、ここに一大京浜臨海工業地帯が出現するのです。

ながしま たもつ ● 元県立川崎高校教諭。地域史研究者。川崎市史の編さんにも関わる。

● 駅名になった企業家たち



JR 鶴見線 国道駅

鶴見小野駅

弁天橋駅

鶴見駅



浅野駅 ● 浅野総一郎
2~4 ページの解説文を参照。

安善駅



安善駅 ● 安田善次郎
安田銀行（現・みずほ銀行）など安田財閥の創始者。金融王として知られる。浅野総一郎とは同郷・富山の出身で、10歳年上の間柄。浅野の事業を資金面で大いに支えた。

浜川崎駅



JFEの敷地内にある白石元治郎の銅像。

JR 鶴見線

JR 鶴見線は、大正十五年三月に鶴見臨港鉄道という名前の私鉄としてスタートしました。浅野総一郎を発起人にして沿線の企業が出資し、原料や製品を輸送する貨物路線として造られたのです。埋め立て地を走る線の駅名には浅野をはじめ、かつての企業家たちの名が残ります。

海芝浦駅 新芝浦駅 浅野駅



大川駅 ● 天川平三郎
洗沢栄一の遠縁にあたる。王子製紙の経営者として手腕を発揮し、日本ではじめて木材によるパルプ製造に成功。日本の製紙王と言われた。日本鋼管の2代目社長でもある。

武蔵白石駅

大川駅



武蔵白石駅 ● 白石元治郎
浅野商店に入社し後に東洋汽船の支配人に就任。初代の日本鋼管社長であり、鋼管王と呼ばれた。浅野総一郎の女婿でもある。

扇町駅 昭和駅

京浜工業地帯の発祥

多摩川沿いから始まった工業地帯。



川崎河港水門

第一次大戦の好景気のころ、川崎に大きな運河・港湾を造る計画が立てられた。この水門は昭和3年(1928)に完成。上部には当時の川崎の名産だった梨やモモの装飾がある。その後、運河の計画は実行されなかったが、残された豪華な水門は当時の川崎の工業の隆盛をうかがわせる。国登録文化財。

近代的な工場第一号 「横浜精糖」川崎工場

明治四十年(一九〇七)、明治製糖(現・大日本明治製糖)の前身である横浜精糖の川崎工場が多摩川の岸辺に工場を建設し、翌春から操業を始めた。粗糖を船で運び、貨車で精糖を出荷したといわれます。水陸交通の便にも恵まれ、広大な土地があることから、周辺には次々に近代的な工場が集まり始めました。同工場は昭和五十一年に操業停止。現在は川崎テクノピアとして近代的な建築物が並びますが、多摩川岸辺にあるレンガ築堤の一部に往時の面影が残っています。



明治末年ごろの明治製糖の工場。大日本明治製糖(株)提供。



上/販売店用の看板。エプロン姿の女性が当時の商標だった。下/販売開始当初の味の素。左の瓶でも高さ7センチ程度と小ぶり。左/川崎工場完成の広告(東京朝日新聞、大正4年(1915)。すべて味の素資料展示室蔵。

逗子から移転してきた 「味の素」

明治四十二年(一九〇九)に逗子でヨード製造のかたわら、製造・発売を始めた味の素。大正時代に入ると関西を中心に売上げが増え、大正三年(一九一四)に川崎区鈴木町(旧橋本郡川崎町)に近代的な工場を建設します。当時の従業員は職員、技術員、職工あわせて百三十九名という規模でした。その後、この地は基幹工場として発展。現在は食品や医薬品など多数の製成品を送り出しています。「味の素資料展示室」には、発売当時の瓶や広告記事、製造の際に使われた道具や研究資料を展示しており、工場見学の際に見ることが出来ます。

なお、所在地である鈴木町の名は、昭和十二年に味の素創業者の鈴木三郎助にちなんでつけられたものです。

国産初の蓄音器と レコード製造発祥の地

横浜で蓄音器の輸入をしていたホーン商会が、明治四十三年(一九一〇)に日本蓄音器商会を設立。川崎久根崎に工場を竣工し国産初のレコードと蓄音器「ニッポノホン」の製造を始めます。戦後は日本コロムビア(現・コロムビアミュージックエンタテインメント)として、美空ひばりをはじめ多くのヒット曲を生み出すほか、オーディオ、テレビなどの電化製品を送り出してきました。



上/大正4年のレコード。浪曲や義太夫などが人気だった。下/ニッポノホン。コロムビアME提供。



トーマス転炉

川崎市市民ミュージアムの中庭にあるトーマス転炉は、日本鋼管が昭和13年（1938）から稼働させていた製鋼炉。当時ドイツで盛んに行われていた「トーマス式製鋼法」の導入は、鉄鋼の増産に大きな威力を発揮し、日本の工業近代化に大きな貢献をした。高さ約7.6m、重さ約60t。●川崎市市民ミュージアム/川崎中原区等々力1-2 武蔵小杉駅からバスで約10分 ☎044-754-4500

JFE川崎事業所の敷地内には、創業時に招かれたドイツ人職工長アウマン氏が滞在した家が復元され、記念資料館として使われています。

昭和初期にいち早く高炉の建設をし、鉄銑一貫（鉄鉱石から鋼鉄を作るまでをすべて行う）体制を整えて発展。戦後は埋め立て地に順次事業所を拡大し、昭和四十年代には、五百五十万平方メートルを埋め立てる「扇島計画」を推進。京浜臨海部の中核として機能しています。

明治四十五年（一九二二）、製鉄所は官営のみの時代に日本鋼管（現・JFE）は初の民間製鉄会社として誕生します。社名のとおり鉄鋼材の中でも高級製品であった鋼管（ガス・液体などの輸送に用いる管）を扱うことを掲げ、欧米からの最新技術を積極的に取り入れました。現在の川崎区渡田地区が発祥の地で、創業当初（大正三年）の従業員数は約七百人でした。



左/大正10年の川崎本社正門。右/「アウマン氏の家」。彫刻展を開催するなど市民に開放されている。手前の門柱は創業時に正門として使われていたもの。

京浜臨海部の発展

広大な埋め立て地は日本有数の工業地帯に。

京浜工業地帯の中核となった「日本鋼管」

上/国産初の電気冷蔵庫や洗濯機が並ぶコーナー。下右/大ヒット商品となった自動式電気釜の初号機（1955年）。下左/建物外観。画像はすべて東京科学館。



暮らしを変えた家電製品の二号機

明治四十一年（一九〇八）、明治製糖の工場に次いで東京電気（現・東芝）が川崎駅前の堀川町に進出し、ソケットや電球の製造を始めました。戦後は堀川町工場として、ブラウン管や半導体など、半世紀以上にわたる新製品を生み出す拠点となっていました。現在、その跡地には大型の複合施設「ラゾーナ川崎」が建ち、多くの人出で賑わっています。

昭和三十六年に川崎市幸区に開館した「東京科学館」は、企業博物館の先駆け。電気が発見の歴史や、最新の科学技術を身近に紹介するほか、初めて国産化された電気冷蔵庫や洗濯機、自動式電気釜の一号機、カラーテレビなどの展示があり、なんとも懐かしい家電製品の歴史を楽しむことができます。

競馬場の跡地が東洋一の紡績工場に

川崎区富士見周辺に進出した富士紡績（現・富士紡ホールディングス）は、大正四年（一九一五）に操業を開始。敷地は四十三万平方メートルあり、工場の設備に加えて、寄宿舎や学校などの施設を擁するなど、その規模は東洋一と誇られました。七年後には、従業員数四千六百人を越すという当地区最大の工場に。工場ができる以前は競馬場だったため、洒落たレンガ造りの旧馬見所一号館が事務所となっていました。

昭和十四年に工場は撤退。戦後、跡地の一部は再び競馬場となりました。



富士紡績川崎工場。静岡県小山町からこの地に進出した。



上/TSURUMI MILLの名で海外にも知られている日清製粉鶴見工場。左/操業開始以来使われているサイロ棟。



操業80年、 まだ現役のサイロ棟

川崎区大川町の日清製粉の鶴見工場は、輸入の小麦を扱う「海工場」として建てられました。それまで国内では麦の生産地に近い内陸に工場があるのが通常でしたが、創業者・正田貞一郎が、イギリス視察の際に海運を活かした工場を目にし、いち早く日本で実現した。埋め立て完成前から土地を購入したという逸話もあります。敷地内には大正十五年（一九二六）の操業開始時から使われているサイロ棟があります。

ちょうど工場ができる時期に市町の合併や編入が相次いだことで、川崎区にありながら横浜の鶴見の名がついています。

自動車量産工場 発祥の地

昭和八年（一九三三）に自動車製造株式会社として創業した日産自動車。横浜工場は、車両の一貫生産ラインを持つ日本初の自動車量産工場でした。昭和四十年代以降はエンジンを中心に生産し、技術を世界の各工場に伝える「マザー工場」として機能しました。

門よりすぐにある建物は、かつての本社事務棟で、昭和四十三年に銀座に本社が移転するまで使われていました。シンブルなデザインは、日本のモダニズム建築の先駆けと言われています。現在は、歴代のエンジンを展示する「エンジン博物館」などがあるゲストホールとして活用されています。



右/エンジン博物館には歴代のエンジンが並ぶ。左/日産の前身であるダット自動車製造開発の7型エンジン。下/横浜工場一号館(日本社ビル)。昭和9年築。横浜市の歴史的建造物に認定。



左/横浜工場第一工場ファサード。昭和5年築。右/VHS方式家庭用ビデオの初号機(日本ビクターVHS記念館蔵)。

その後は「音のビクター」として高級オーディオをはじめとした音響・映像機器を中心に製造・販売。昭和五十一年には、空前のヒット商品となったVHS方式の家庭用ビデオ機を発売。同規格は国際的に広まりました。

日本ビクターの横浜工場(神奈川県守屋町)が完成したのは昭和五年(一九二八)。電気式蓄音器の国産化とレコードの大量製造を目指し、近代的な設備は東洋一と呼ばれました。操業開始当時の構築を残す第一工場のファサード(建築物の正面部分)は、横浜市の歴史的建造物に認定。正門付近の歩道上から見ることができます。

歴史を語る建造物と 日本発の国際規格

横浜の山手地区で創業したキリンビール。関東大震災で工場が被害をうけ移転が決まります。移転先には東京も候補に上がりましたが「引き続き横浜で」という声に応え、大正十五年(一九二六)に横浜近郊の生麦(現在の鶴見区生麦)に新工場を設立しました。当時、生麦は旧橋本郡に属していたため水質が定評があった横浜市の水道が使えず、わざわざ隣接する横浜市内の土地を求め解決しました。新工場では海外から最新の機械を取り寄せ、同社の主要拠点として発展。現在の横浜工場は「キリン横浜ビヤブレッジ」として、広く見学や体験を受け付けています。



右/操業開始直時。左/山手工場井戸跡(横浜市立北方小学校内)。下/1889年のラベル。キリンビール提供。



震災後に つくられた新工場

「なつかしのフォトアルバム」

工業の発展にともない人口も増加した川崎市臨海部。その変わりゆく風景を、昭和三十年代を中心に紹介。



川崎駅前「さいか屋」屋上から、臨海工業地帯をのぞむ（昭和36年）。



埋め立て地と工業地帯遠景。産業の発展の一方で、ばい煙公害が問題になりはじめた（昭和38年）。



右／川崎市営の千鳥町埋め立て事業が完成（昭和39年）。

左／第一京浜国道。川崎区池田町付近（昭和38年）。

写真提供：川崎市市民ミュージアム、川崎市役所



川崎区扇町界隈。昭和電工の看板が見える。高度経済成長の波にのり町も活気にあふれた（昭和34年）。

京浜臨海部埋め立ての経過

民間の埋め立てから、市、県や国が手がけたものまでさまざま。

浅野総一郎らが手がけた末広町から扇町までを中核とした埋め立て地は、海に向かって次々と拡大していきました。

横浜市や川崎市、神奈川県が主導で行ったものを中心ですが、国や民間が手がけた地区もあります。

凡例

【外枠】	
国	～大正4年
神奈川県	大正5年～昭和9年
横浜市	昭和10年～昭和19年
川崎市	昭和20年～昭和39年
民間	昭和40年～昭和59年
	昭和60年～



埋め立ての光景。砂を運ぶ土管を人力で組み上げる。当時は浮島町や千鳥町の造成が進められていた（昭和37年）。

京 浜 臨 海 部 年 表

年号	主な出来事
明治38年	京浜電気鉄道（現・京浜急行電鉄株）、品川～神奈川間開通
40年	横浜精糖（現・大日本明治製糖株）が川崎進出
41年	浅野総一郎が鶴見埋立組合を設立
	東京電気（現・株東芝）が川崎進出
43年	日本蓄音器商会（現・コロムビアME）設立
45年	日本鋼管（現・JFEホールディングス株）設立
大正2年	鶴見埋立組合、埋立事業着工（約418ha）
3年	鉄道院線、東京～高島町間電車運転 味の素川崎工場完成 富士瓦斯紡績（現・富士紡ホールディングス株）川崎工場操業開始
7年	鉄道省、川崎～渡田間貨物鉄道を敷設
9年	東京湾埋立株設立／省線鶴見駅西口開設
11年	京浜運河完成
12年	富士電機製造（現・富士電機株）設立
14年	芝浦製作所、鶴見工場を本拠に生産開始
昭和元年 (大正15年)	鶴見臨港鉄道、安善～石油（浜安善）間開通 日清製粉株鶴見工場操業開始 麒麟麦酒（現・キリンビール株）横浜工場完成 横濱護謨（現・横濱ゴム株）横浜工場設立
4年	南武鉄道、尻手～浜川崎間開通
5年	日本ビクター株横浜工場設立 鶴見臨港鉄道旅客輸送開始
6年	昭和肥料（現・昭和電工株）川崎工場設立
7年	多摩川の汚染が社会問題化
8年	自動車製造（現・日産自動車株）設立
11年	横浜市営恵比須町・大黒町埋立事業完成（約167ha）
13年	いすゞ自動車株川崎工場設立
20年	京浜工業地帯大空襲
34年	川崎市営千鳥町埋立事業完成（約140ha） 日石化学コンビナート生産本格化
35年	東亜港湾工業夜光埋立事業完成（約61ha） 川崎市公害防止条例が施行
37年	県営浮島埋立事業完成（約445ha） 浮島の東燃化学コンビナート稼働
38年	県営扇島埋立事業完成（約231ha）
40年	日本カーフェリー、川崎～木更津間開業
45年	京浜工業団地造成
50年	日本鋼管株扇島埋立事業完成（約429ha）
53年	扇島工業団地造成
54年	川崎海底トンネル開通
55年	横浜市営大黒ふ頭埋立事業完成（約223ha）
57年	浅野町工業団地造成 川崎公害訴訟がはじまる
61年	大川町産業団地造成
平成元年	横浜ベイブリッジ完成 川崎市営東扇島埋立事業完成（約434ha）
6年	高速湾岸線（東海IC～大黒IC）開通
8年	横浜港流通センター（Y-CC）完成
9年	東京湾アクアライン開通
13年	横浜市産学共同研究センター本格始動



鈴木商店味の素工場



いすゞTX40型トラック



国産初のカラーテレビ
(東芝科学館蔵)



アクアライン開通
記念のモニュメント（海ほたる）



上／ゴム通り。下／1943年ごろの横濱工場。横濱ゴム株提供。

●**通り**に名を残した企業

ゴム通り 大正六年（一九一七）に横浜市西区平沼町で創業した横濱護謨（現・横濱ゴム）は、関東大震災の被害を受けて鶴見区平安町（現在の県立鶴見総合高校周辺）に移転。同工場は昭和五年（一九三〇）から操業を始め、日本一のゴム生産能力を誇りました。第二次世界大戦の空襲によって大半を焼失したため工場は平塚などに移り、現在は通りに名を残すのみになっています。

セメント通り 浅野総一郎が政府から譲り受けた深川のセメント工場を、大正六年（一九一七）川崎区浅野町に移転。この浅野セメント川崎工場（現・デイ・シイ）に由来するセメント通りは、現在、通称「川崎コリアタウン」として、焼肉店がにぎわいを見せています。



上／昭和初期の浅野セメント工場。下／本場の料理店が軒を連ねるコリアタウン。



鋼管通り 国内初の民間製鉄会社である日本鋼管（現・JF E）が、大正三年（一九一四）に製鉄品を運び出すための新道をつくったことに由来します。「鋼管通り（り）」は、通りの名前だけでなく、この道路に面した地域の町名にもなっています。

左／現在の鋼管通り。下／昭和2年。右側の塀は日本鋼管病院のもの。



京浜臨海部マップ



京浜臨海部の産業の歴史をたずねるには、参考資料として以下の冊子がおすすです。

かわさき産業ミュージアムガイドブック
川崎市川崎区役所 地域振興課
☎044-201-3127
<http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/museum/index.html>

京浜臨海部ぐるり探訪MAP
京浜臨海部再編整備協議会
☎045-210-5587
<http://www.keihin.ne.jp/try/map.html>

⑬ **キリン横浜ビアレッジ**
横浜市鶴見区生麦1-17-1
☎045-503-8250
<http://www.kirin.co.jp/bvyokohama/>

⑭ **浅野総一郎除像**
横浜市神奈川区区安台1-3-1
(浅野学園内)

※一部の施設を除き見学には予約が必要となります。また、団体のみ受付の場合があります。見学に関する詳しい情報は直接お問い合わせください。

① **東芝科学館**
川崎市幸区小向東芝町1
☎044-549-2200
<http://kagakukan.toshiba.co.jp>

② **川崎河港水門**
川崎市川崎区港町66

③ **味の素株式川崎工場**
川崎市川崎区鈴木町1-1
☎0120-003476
<http://www.ajinomoto.co.jp/kawasaki/>

④ **花王株式川崎工場**
川崎市川崎区浮島町1-2
☎044-266-3231
<http://www.kao.co.jp>

⑤ **東京電力㈱東扇島火力発電所**
川崎市川崎区東扇島3
☎044-390-2300
<http://www.tepco.co.jp/h-ogishima-tp/index-j.html>

⑥ **川崎ゼロ・エミッション工業団地**
川崎市川崎区水江町6
☎044-299-5374

⑦ **㈱デイ・シイ川崎工場**
川崎市川崎区浅野町1-1
☎044-322-5360
<http://www.dccorp.jp>

⑧ **アウマンの家 (JFE都市開発内)**
川崎市川崎区南渡田町1-1
☎044-322-6000

⑨ **日清製粉(株)鶴見工場**
川崎市川崎区大川町3-1
<http://www.nisshin.com>

⑩ **電気の資料館**
横浜市鶴見区江ヶ崎町4-1
☎045-613-2400
<http://www.tepco.co.jp/shiryokan/index-j.html>

⑪ **海芝公園**
横浜市鶴見区末広町
☎045-510-5016
(㈱東芝京浜事業所総務担当)

⑫ **東京ガス(株)環境エネルギー館**
横浜市鶴見区末広町1-7-7
☎045-505-5700
<http://www.wondership.com>

⑬ **東京電力(株)横浜火力発電所**
トウイニー・ヨコハマ
横浜市鶴見区大黒町11-1
☎045-511-1222
<http://www.tepco.co.jp/yokohama-tp/twiny-yokohama/index-j.html>

⑭ **大黒ふ頭C-4コンテナターミナル見学施設**
横浜市鶴見区大黒ふ頭24
☎045-671-7290
<http://www.yfdc.or.jp>

⑮ **日産自動車(株)横浜工場・ゲストホール**
横浜市神奈川区区宝町2
☎045-461-7320
<http://www.nissan.co.jp/INFO/FACTORY/YOKOHAMA/>

上/倉田さんは、父親の経営する機械加工の会社で、現在、旋盤技術者として腕を磨いている。中上/工場では半導体の製造装置などを製作。中下/尊敬する父・信彦さんと母こずみさんと。写真下は視察先。右から、ケルンで開催された国際ハードウェア・メッセの会場前、シュツットガルトの町、カール・ユング社での研修風景。

ヨーロッパのトップメーカーを視察

「海外派遣団」のことは以前から知っていましたし、機会があればぜひ参加したいと思っていました。ですから今回、「神奈川県中小企業技術者等海外派遣団」（平成十八年三月四日〜十二日）に参加できたことは、本当にラッキーでした。おかげで大変貴重な体験をさせていただきました。

視察先はドイツとスイスの化学工業と精密機械加工などのトップメーカー六社です。私が担当したカール・ユング社はドイツのシュツットガルト郊外



海外派遣団員が語る ③
世界に誇れる
日本の「ものづくり産業」に
エールを送りたい。
藤沢市弥勒寺 (有)シンコー 倉田悦子さん

に本社工場のある工作機械メーカーで、平面研削盤けんかくばんに関してはヨーロッパ随一の実績を誇るという、文字通りのトップメーカーです。担当者の方からお話をうかがい、工場見学をしましたが、「さすがに大したものだなあ」と、感心するやら、感動するやらで…。

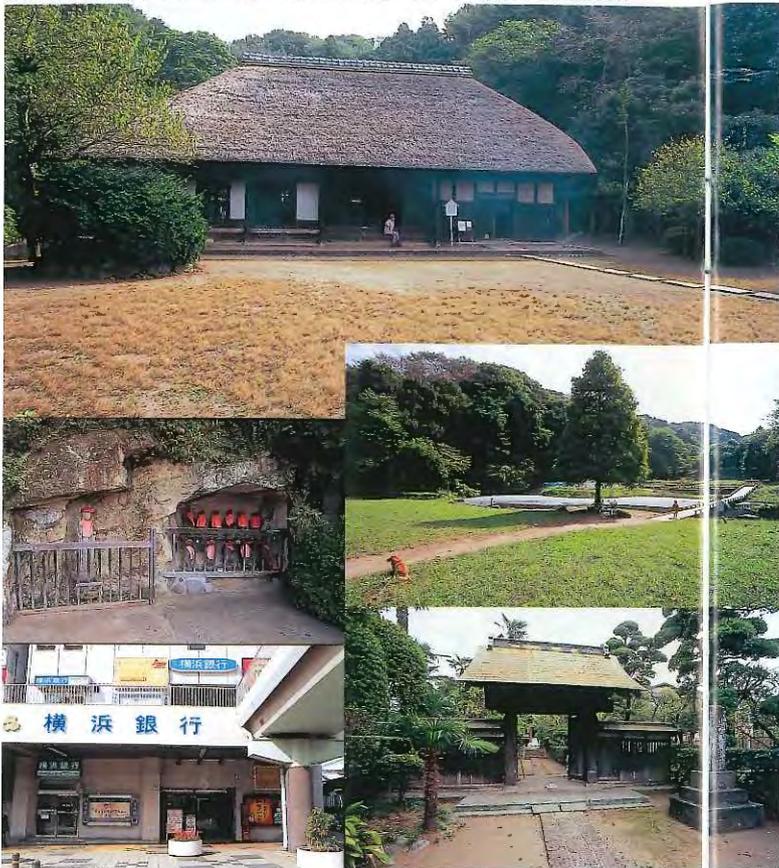
国を挙げて熟練技術者を養成

とくに感心したのは、社員教育でしようか。たとえば、仕事の分野ごとに「マイスター」の資格をもつ技術者がいて、その下ではベテランの技術者はまだ未熟な若年者がコンビで作業をす

めていましたが、これにより技術の伝承を図るだけでなく、仕事に対するプライドをも養っているように感じられました。

ドイツは日本とは違い、小学生のころから将来の職業の分野を決めるのがふつうです。父親が技術者なら、父親の働く工場へ行かせて、直接働く姿を見せるなどして、職業に対する「意識づけ」が行われています。医師や弁護士など一部の職業を除いて、中学校を卒業すると、職業訓練校などで勉強しながら仕事をする。その際、マイスターの資格をもった人たちが指導に当た

上/旧小池邸。天保12年(1841)に棟上げされた寄棟造・茅葺屋根の建物。市内に残されている数少ない民家建築の一つ。昭和58年に新林公園内に移築。中右/新林公園。中左/柏尾川近くの岩窟に安置されている延命地藏と二組の六地藏。下右/弥勒寺。嘉禄2年(1226)、北条泰時の創建と伝わる古刹。下左/横浜銀行藤沢中央支店。



※(財)はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として、昭和45年より神奈川県内の工業技術者を対象に「神奈川県中小企業技術者等海外派遣事業」を主催。海外の工業技術を洞察する機会を提供しております。



日本人の「器用さ」は世界一

しかし、日本に帰ってから少し考えが変わりました。たしかにドイツやスイスは高い技術力をもっています。そ

るそうです。こうして、徐々にプロ意識が培われていき、実際にマイスターを目指す若者たちも増えていく。マイスターの試験はかなり難しいですが、資格をとれば、社会的な地位や賃金は保証されます。こうしたことは、すべて国の政策として行われています。「なんともうらやましい話だなあ」と思いましたね。

これは技術者の養成に力を尽くしている結果といってもいいでしょう。だとしたら、日本はどうかというと、ドイツやスイスに負けないぐらいの、いや、それ以上の技術力をもっていますよね。それも国のサポートに頼らず、独力で、というか、本来日本人がもっている「器用さ」と「根気」を活かして長い年月をかけて創り上げてきたものです。うちにはドイツ製の工作機械があります。たいへん優れた機械で、かなり精度の高い製品が作れますが、それ以上を求めるとなると、高度な手作業が要求されます。機械でできることは限

られています。人の手には限界がありません。その限界に挑戦することで日本の「ものづくり産業」は発展してきたのだと思います。ですからドイツやスイスの真似をすることは学ばなければなりませんけどね。

実は、私は学生時代から居合(居合抜き)をやっているんですけど、居合と機械加工の仕事は相通するものがあるんです。無意識の集中力というか、気合というか、言葉では言いにくいんですけどね(笑)。(談)

ホール

〈はまぎんホール ヴィアマールからのお知らせ〉
ホール利用のご案内

ヴィアマールは、イタリア語で「船便」の意味。広く世
界へつらなる文化、芸術をお届けするホールでありたい
という願いをこめ、名づけました。みなとみらいに
建つ横浜銀行本店ビル一階にあり、ジャンルを問わず、
コンサート、講演会などにご利用いただけます。

施設概要

- ホール 客席数517席（前舞台使用時490席）
- 使用時間 9時～22時まで
- 使用料金 基本料金、技術者料金、付帯設備使用料の合計。
基本料金は、1日を3区分に設定、平日1区分6万3千円。
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、5月3日～5日
- お問い合わせ・お申し込み先 ヴィアマールホール事務局
（銀行営業日の10時～16時） ☎045（225）2173
横浜市西区みなとみらい3-1-11 横浜銀行本店1階



はまぎんホール ヴィアマール



<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>
※「マイウェイ」へのご意見・ご要望は
info@yokohama-viamare.or.jpへ
お気軽にお寄せください。

〈はまぎん〉からのお知らせ
「年金」電話相談サービス
（無料）のご案内

年金制度や年金請求の手続き方法など、
年金に関する疑問に
何でもお答えいたします。
また、年金に関連した雇用保険制度、
健康保険制度についての「相談や
「年金教室」のお申し込みも承ります。
お気軽にお電話ください。

- はまぎん年金デスク
フリーダイヤル ☎0120(334)089
- 相談受付日 銀行窓口営業日
- 相談受付時間 9時～17時

編集後記

幕末の開港を契機に欧米の進んだ産業
技術を導入して、近代化を推し進めてき
た日本、中でも京浜臨海部はわが国を代
表する京浜工業地帯の中核として発展を
遂げてまいりました。

折りしも川崎市は、来年「工都百年」
を迎えます。そこで、今回の「マイウェ
イ」では、日本の近代化に大きく貢献し
た京浜臨海部の産業について、その発祥
の歴史と、今もさまざまな形で残されて
いる産業遺産をご紹介します。「かながわ産
業遺産物語」を発行いたしました。

いまでもなく、私たちの暮らしを支
える産業は、暮らしの文化の原点でもあ
ります。誌面でご覧いただいたとおり、
多くの企業や行政などが工場現場、企業
の博物館、あるいは地名・駅名にと、多
方面にわたって貴重な産業遺産の保存・
維持に努めております。そのご尽力に対

して改めて感謝申し上げますとともに、読
者の皆様方には、機会があればぜひお訪
ねいただき、現在、そして未来へつな
がる産業文化の歴史をご覧いただければ幸
い입니다。

さて、今回は「京浜臨海部編」と題し
まして川崎市を中心とした産業遺産をご
紹介いたしました。が、来年六月には、横
浜市と横須賀市の産業遺産をご紹介します
続編を発行いたしますので、どうぞご期
待ください。最後になりましたが、制作
にご協力をいただいた長島保氏をはじめ、
取材にご協力いただいた関係者の皆様方
に厚く御礼を申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団
事務局長 清水照雄

●次号予告 3月下旬刊行
「かながわ郷土食物語」(仮)